

区政会館 だより

No.431
令和8年2月



中央区（手前が晴海）

巻頭特集

未来への取り組み
～23区の未来図～

第21回 中央区



晴海区民センター



晴海地域交流センターはるみらい

過去から現在、そして未来へ
進化を続けるまち「晴海」



23 TOKYO

特別区長会事務局
特別区議会議長会事務局
特別区人事・厚生事務組合
公益財団法人特別区協議会
東京二十三区清掃一部事務組合
特別区競馬組合

未来への取り組み ~23区の未来図~

第21回 中央区

過去から現在、そして未来へ

進化を続けるまち「晴海」

中央区の南東部、東京湾に面した晴海は、昭和初期に埋め立てられた土地に誕生したまちです。特に晴海四・五丁目には、記憶に新しい令和3（2021）年に開催された東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会（以降、東京大会）の選手村が開村した場所で、大会後には大規模なマンション群として住宅地に転用されました。本特集では、時代の中で変わり続ける晴海のまちづくりについて紹介します。

埋立地から始まる晴海の変遷

「晴海」の由来

日本橋から新橋までの地域は、江戸時代に徳川幕府が行った江戸城の築城と城下町の建設工事（「天下普請」）によって造られた埋立地です。埋め立て工事は、明治時代に入ってからも続けられ、明治から大正にかけて現在の月島・勝どきが順次埋め立てられていきました。晴海の埋め立てが完成したのは、昭和6（1931）年。当時、月島



中央区

四号地と呼ばれていたこの地につけられた「晴海」の名には、「いつも晴れた海を望む」との希望が込められています。

記憶に残る東京国際見本市、東京湾大華火祭の開催

昭和30（1955）年には、晴海五丁目以外貿易埠頭である晴海埠頭が開業し、同じ年に第1回東京国際見本市（以降、見本市）が開催されました。当初、晴海は仮設展示館を置いた第2会場でしたが、この見本市が好評を博したことから、晴海五丁目に新たに恒久展示館として東京国際貿易センターが建設され、第3回以降はここで開催することに。平成8（1996）年に江東区有明の東京国際展示場へ会場が

移るまで、見本市のほか、東京モーターショーなど今も多くの方々の記憶に残るさまざまなイベントが40年にわたって開催されました。

晴海埠頭開業

の2年後、昭和32（1957）年には現在の晴海一丁目に初期の公団住宅が建てられました。なかでも建築家・前川國男が設計した公団初の10階建て集合住宅である晴海高層アパートは、「都



晴海高層アパート



東京国際見本市

市住宅のモデル」として注目を集めました。

そして、昭和63（1988）年には、開発が進む晴海や臨海部を盛り上げるため、「東京湾大華火祭」を初めて開催。以降、休止前の平成27（2015）年まで長きにわたり日本を代表する夏の風物詩として多くの方々に親しまれました。

まちのシンボルとなる再開発の完成、官民連携のまちづくりを推進

平成初期からは官民連携によるまちづくりがスタートします。その第一歩となったのが、平成2（1990）年に東京都が策定した「豊洲・晴海開発整備計画」（以降、豊

晴計画）に基づき、この地区で初めて行われた再開発です。この開発によって、平成13（2001）年にまちのシンボルとして、「職・遊・住」が融合した業務・商業・住宅・文化施設など都心型の複合施設「晴海アイランドトリトンスクエア」（以降、晴海トリトン）が誕生しました。

また、同時期には都市の重要なインフラとなる清掃工場も建設されており、公共施設を含む一つの開発計画において、住民や企業の方々と区が一体となって協議を重ねる協議型のまちづくりを丁寧に進めてきました。平成後期になると、高層マンションの竣工により晴海の人口は増加し、平成12（2000）年に結成された晴海連合町会が中心となり地域の祭りやイベントを通じて交流・防災活動なども盛んに行われ、今につながる晴海のまちの土台となるコミュニティが形成されることとなりました。



2002年晴海地区の様子



1989年晴海地区の様子

大会後の将来を見据えたまちづくりの始動

選手村整備を契機に晴海の将来を考える

平成25（2013）年の東京大会の開催決定により、豊晴計画において、晴海の選手村が整備される地区の土地利用が、国際交流拠点から住宅地等のエリアに変更され、晴海のまちづくりは重要な局面を迎えます。大会後における選手村の住宅転用に伴う、人口急増への対応が急務となったことから、単なる建物の整備にとどまらない、将来を見据えた魅力的なまちづくりを進めていくため、区は平成26（2014）年に、地元とともに「晴海地区将来ビジョン」（以降、将来ビジョン）を策定しました。

将来ビジョンでは、「世界をリードする先端技術を活かし、知的創造を育む居住・滞在・憩い空間」をまちのコンセプトに、その実現に向けて「つながる」「暮らす」「交わる」「憩う」「支える」という5つのキーワードを打ち出しました。

以降、キーワードごとの主な取り組みと選手村レガシーをご紹介します。

つながる（周辺地域をつなぐ広域交通と人をつなぐ文化交流）

暮らしやすく、にぎわいのあるまちづくりにおいて、交通アクセスの良さはとても大切です。晴海では交通網の充実に向けて、令和6（2024）年2月に東京BRTが新橋と晴海五丁目とを結ぶ「選手村ルート」の運行を開始しました。令和7（2025）年12月には、晴海から東京駅方面への運行計画も公表され、令和8（2026）年秋頃に運行が始まる予定です。

東京駅から築地、晴海を通り、臨海部である有明方面を結ぶ都心・臨海地域地下鉄新線の整備に向けた検討も進められており、交通の利便性向上に向けた取り組みのさらなる加速が期待されています。

また、文化交流では、晴海トリトン内の第一生命ホールを活用した音楽イベントや、オリンピックレガシーを活用したスポーツ交流イベントなど、暮らしの楽しさを彩るさまざまな催しが行われています。

暮らす（ウォーターフロントを活かした居住エリア）

多様な人々や幅広い世代にとって住みやすく、愛着が持てるまちの実現には、地域のコミュニティが欠かせません。

もともと、連合町会をはじめとした自治会などの活動が盛んに行われ、地域の結束力が高い晴海ですが、大会後の約1万2千人にもおよぶ人口増加の前に、選手村の整備段階から「晴海全体のコミュニティ形成」は、大きなテーマとなっていました。地元住民や企業、晴海フラッグ事業者と議論を重ね、「必要な時に伸縮自在に結束し、地域の課題解決を図ることができコミュニティ」というこの地区の新しいコミュニティの姿を示しました。

令和6（2024）年に設立された晴海フラッグを包含する自治組織「HARUMI FLAG自治会」では、現在、様々なイベントや活動が企画され、盛り上がりを見せています。こうした新しい風とこの地で受け継がれてきた活動が連携し、時に融合しながら

相乗的に晴海全体で活動の輪が広がっていくよう、「新しいコミュニティの姿」の実現に向けた取り組みをさらに展開していきます。



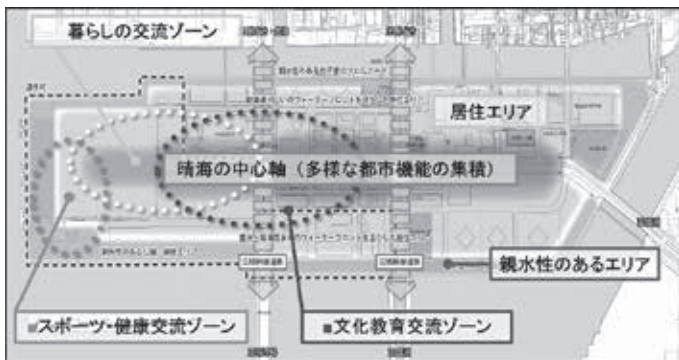
晴海フラッグ

交わる（晴海の中心軸）

東西に長い晴海の特徴を踏まえ、生活利便性の向上とにぎわいの創出を目指し、地区の中心軸に多様な都市機能を集積させることとしています。あわせて、人が自然に集い、交わるまちづくりを進めていることも大きな特徴です。

こうした都市機能の中でも、住民の暮らしに最も身近な存在が公共施設です。令和6（2024）年の「晴海フラッグ」のまちびらきに合わせ、本区は「晴海西小学校・晴海西中学校」、「晴海区民センター」、そして「晴海地域交流センターはるみらい」（以降、はるみらい）という、地区の基幹となる3つの施設を整備しました。なかでも、温浴施設をリニールしてオープンした「はるみらい」は、世代を超えた地域交流の核を担う施設で、その愛称には「晴海の輝く未来、皆さんに愛される施設になってほしい」という思いが込められています。オープンから2年が経過した現在、フリースペースである「多世代交流スタジオ」をはじめ「学習・工作・料理スタジオ」などさまざまな交流できる工夫を随所に凝らしたこの施設は、子どもから高齢者まで多くの方に日々利用され、地域の活力とにぎわいの拠点となっています。

また、同施設を主な会場として開催する「晴海まつり」は、多世代のコミュニティを育み、晴海の活気を象徴するイベントとして着実に定着しつつあります。



晴海の中心軸



晴海西小学校・晴海西中学校

晴海まつり

令和7（2025）年11月22日、月島地域のにぎわいの創出とコミュニティの活性を目的に、連合町会や自治会など、地域の方々の協力による縁日コーナーやステージイベント、ワークショップなど、さまざまな世代が楽しめるイベントとして「第2回中央区晴海まつり」を開催しました。

第2回目となる令和7年度は、「はるみらい」に加えて、運動コーナーを設けた「晴海ふ頭公園」も新たな会場として広域的に開催し、前回よりも多くの方々にご来場いただきました。今後も多くの方の協力・参加を得て、晴海全体で楽しめるような成長型のイベントを目指していきます。



晴海まつり

東京湾大華火祭 ～11年ぶりに開催～

平成27（2015）年8月を最後に休止していた東京湾大華火祭の開催が決定しました。区制施行80周年記念事業として、本区の魅力を区内外に広く発信するとともに、さらなる活気やにぎわいの創出を目的としています。開催日は令和8（2026）年10月24日（土）、会場については、花火打上場所が東京港晴海埠頭沖台船、観覧会場は晴海埠頭およびその周辺。約1万2000発を打ち上げる予定です。

憩う（親水性のある公園・緑地エリア）

水辺だけでなく緑も豊かな晴海では、散歩やジョギング、水辺を望む公園でのひとときの休憩など、思い思いの過ごし方ができます。

晴海フラッグには誰もが利用できる広場や通路が整備され、まちの憩いの空間がさらに増えました。

また、晴海の外周を、水辺に沿って自由に散策できるよう、晴海ふ頭公園や緑道公園といった公共施設に加えて、歩行者用通路が民間開発の中で整備されるなど、官民連携のもと地元から期待の大きかったプロムナードの実現に向けた取り組みを進めています。

支える（最先端技術の活用と防災対策）

東京大会における水素エネルギー活用のレガシーとして、晴海フラッグの整備では、環境先進都市のモデルとして実用段階では国内初となるパイプラインによる街区への水素供給が行われ、純水素型燃料電池にて発電した電力は住宅の共用部等で活用されています。

また、まちの安全・安心を支える地域防災力の強化に向けては、地域防災の要である「防災拠点運営委員会」が中心となって、高層マンションの方々や地元中学生も参加した安否確認・物資搬送訓練などが行われています。

選手村レガシーの活用

選手村レガシーは、晴海だけに存在する特別なものです。このレガシーをまちづくりに生かしていくため、大会MAPを掲載している案内板などを記した「レガシーマップ」を作成し、まちの回遊性向上に取り組みとともに（レガシーマップは区ホームページからご覧いただけます）、区施設では、晴海図書館（晴海区民センター内）などで、選手村ビレッジプラザで使用された木材を再利用した木ルーバーや、選手たちが平和への祈りを込めてサインした「休戦ムラール」を展示しています。

晴海に刻まれる大会の記憶の数々を貴重な財産として共有・継承しながら、ともにまちづくりを進めていく一体感の醸成につなげていきたいと考えています。



晴海図書館

晴海の未来

晴海は、日本の都市開発史において特筆すべき進化を遂げてきた地区です。

見本市やモーターショーの舞台となり、さらに都市のライフスタイルをリードする住宅が建設されるなど、常に新しい文化や情報を発信するパイオニアであったこの地にとって、東京大会の開催は、新たな変革をもたらす大きな契機となりました。

人口増を見据えたまちづくりが着実に進み、人々が交流するまつりやイベントが少しずつ広がりをみせる中で、地域に根差し、受け継がれてきたコミュニティや伝統・文化と、新住民が

持つ多様なアイデアが融合し、コミュニティの醸成の先に、新たな活動やつながりが生まれる芽吹きも感じられます。そうした中で、令和8（2026）年10月に11年ぶりに開催される東京湾大華火祭は、この地への愛着を深め、人々のつながりをより強固なものにしていくことが期待されます。

加えて、整備に向けて検討が進められている都心・臨海地下鉄新線は、晴海から都心部や臨海部、さらにその先へのアクセスを飛躍的に向上させ、晴海の魅力を一層高めていくことでしよう。

常に成長し、新たな価値を生み出し続ける「晴海」から、今後も目が離れません。



東京湾大華火祭

令和8年1月 区長会・議長の主な案件等

区長会

1.16

■東京2025デフリンピックについて

■国民健康保険における保険料水準の統一について

■令和8年度都区財政調整協議について

■東京都・特別区・東京都医師会連絡協議会（二者協）及び東京都地域保健事業連絡協議会（五者協）の関連事業について

■廃棄物処理原価・手数料原価算定結果について

■オール東京62市区町村共同事業「みどり東京・温暖化防止プロジェクト」事業について

■令和8年度各団体予算概要（案）等について

■「不合理な税制改正」に対する特別区長会緊急声明について

■令和7年度第2回都区協議会及び知事と特別区長との意見交換会について

■後期高齢者医療における令和8・9年度保険料率の「最終案」について

（特別区長会事務局）

議長会

1.19

■令和8年度都区財政調整協議について

■「清掃事業の課題」検討経緯等のまとめの公表について

■令和8年度特別区議会議長会等役職一覧（案）について

■議長会等会議日程表（令和8年度）（案）について

■要望事項の基準に関する下命事項の検討結果について

■令和8年度特別区議会議長会一般会計収支予算（案）について

（特別区議会議長会事務局）

「不合理な税制改正」に対する 特別区長会緊急声明を発表

特別区長会は、令和7年12月19日（金）に、同日に決定した令和8年度与党税制改正大綱の公表を受けて、区民サービスを堅持するため、「不合理な税制改正」に対して断固反対する緊急声明を発表しました。

緊急声明の概要

国が「地方創生の推進」「税源偏在是正」を名目に断行してきた、地方法人課税の一部国税化やふるさと納税制度等の「不合理な税制改正」により、特別区は深刻な影響を受けています。

その影響額は、令和7年度だけで、約3600億円、平成27年度からの累計では約2兆3000億円という衝撃的な額です。

令和8年度与党税制改正大綱では、東京都が課税する特別区の土地に係る固定資産税について、著しく税収が偏在している状況に鑑み、必要な措置を検討し、令和9年度以降の税制改正において結論を得るなどとされ、特別区の貴重な税源をさらに吸い上げる動きが見受けられます。

固定資産税は、基礎的自治体である特別区が、その地域に住み、活動する人々が日々利用する公共施設の整備や介護、福祉などの行政サービスを支える地方税の根幹を成す税です。

これらの財源を、「受益と負担」の関係を無視し、一方的に収奪することは、首都東京に住まい活動する人々を支える、行政サービスの提供に支障を生じかねないものであり、特別区として決して看過できません。

緊急声明の本文は、特別区長会のホームページをご覧ください。

(www.tokyo23city-kuchokai.jp)

（特別区長会事務局）

「東北絆まつり2026盛岡」 のPR展示を開催しています

特別区長会では、特別区全国連携プロジェクトの一環として、「東北絆まつり」への支援・協力を行っています。今年は岩手県盛岡市で、5月23・24日の開催が決定し、PR展示を開催しています。

是非お立ち寄りください。

◆展示内容

「東北絆まつり2026盛岡」の紹介

◆展示期間

令和8年2月7日（土）～3月3日（火）

◆展示時間

平日 9:00～20:30

土曜日 9:00～17:00（日曜・祝日は休館）

◆会場

東京区政会館1階エントランスホール

（千代田区飯田橋3-5-1）

（特別区長会事務局）

令和7年度第2回全国連携展示「東京で感じる堺〜大阪府堺市と特別区の多彩な共通点」を開催しています

特別区（東京23区）では、全国各地域との信頼関係・絆をさらに強化し、連携を深める取組として「特別区全国連携プロジェクト」を進めています。今回の展示では、特別区全国連携プロジェクト賛同自治体である大阪府堺市と連携し、堺市の紹介や特別区との共通点、連携事業の実績について、左記のとおり展示を行っています。

◆展示内容

大阪府堺市の紹介や23区との連携実績の紹介
大阪府堺市の観光紹介
大阪・関西万博への堺市の取組紹介

◆開催期間

令和8年1月9日（金）～3月3日（火）

◆展示時間

平日 9:00～20:30
土曜日 9:00～17:00（日曜・祝日は休館）

◆会場

東京区政会館1階エントランスホール（千代田区飯田橋3-5-1）

◆主催

特別区長会事務局・特別区協議会

（特別区長会事務局・特別区協議会事業部）



「人材獲得競争時代における職員定着戦略」をテーマに研修を実施しました

特別区職員研修所では、「人材獲得競争時代における職員定着戦略」キャリア安全性を高めるマネジメント理論」をテーマとして、1月9日に自治体経営研修を実施しました。講師には、理論的かつ実践的なプログラムで様々な企業の人材育成・組織強化をサポートする株式会社Momentum（モメンター）代表取締役 坂井風太氏をお招きし、20区2組合の管理監督層の職員94名が受講しました。

地方自治体の若手職員の離職が増加傾向にあることを背景に、2時間にわたって、「言っても無駄」「いても無駄」と感じさせない組織風土を作り、若手職員の「キャリア安全性（今の職場で働き続ける場合、自分のキャリアの展望は安全であるという認識）」を高めていくことが重要であるとお話をいただきました。また、若手職員の離職防止には、自己効力感だけでなく、「このチームであれば成し遂げられそう」「一緒にやれば上手いきそう」と感じられる、組織効力感を高めていくことが効果的だと指摘もありました。

研修生からは、「管理監督者が、組織・部下に様々な影響を与えることを再認識した」「ポジティブゴッシング（良い噂話の共有）等活用し、組織効力感を高めてい

きたい」「心理的安全性を確保できるような組織としてGRIIT（やり抜く力）を高めていきたい」という組織強化の気づきに関する感想が多く寄せられました。

特別区職員研修所ではこれまでも、民間講師を招き、「職員エンゲージメント向上戦略」をテーマとして研修を実施しました。自治体経営研修のテーマは、23区研修担当部署からの要望や、受講生からのアンケート結果を受けて選定を行っており、来年度も3回の実施を予定しています。

（特別区職員研修所）



坂井講師の講義の様子

東京都立大学 オープンユニバーシティ飯田橋キャンパスより 3月開講講座のご案内です！！

●なぜ生活が苦しいのか

【講座コード：2541E005】

2026年度の最低賃金（時給）を平均1121円とすることが決定されました。驚くほどの低水準です。時給1121円で働く と週40時間、年2000時間働いても年収は、224万円にしかなりません。生計費調査によると単身世帯で時給1600円～1700円ないと全国どこでも生活が成り立ちません。時給1121円では、まじめに働いても食べていけないのです。現在、最低賃金に近い低賃金で働く人は約2300万人に上ります。これは異常事態です。どうして日本はこうした事態になったのか。自己責任の問題ではありません。勝ち組といわれる一部の企業・富裕層による、一部の勝ち組のためのルール・政策の結果であることを説明します。

第一回では、その根本原因である労働の規制緩和、労働の貧困化を学びます。

第二回では、社会生活を支える財政政策を学びます。

第三回では、近年はやりのコーポレートガバナンス改革の由来とその意味を学びます。

講 師：福田 泰雄 一橋大学 名誉教授

日 時：3月7日（土）、14日（土）、21日（土）
15：30～17：00（全3回）

受講料：7,500円

場 所：飯田橋キャンパス（対面）

●人生100年80歳現役へのライフシフト超入門 ～ライフシフトプランを考える～

【講座コード：2541F010】

人生100年時代と言われる現代。自身の目的に向かって、これまでの行動を変えたいと思う方も多いのではないのでしょうか？本講座では、「ライフシフト」を実践するために、必要な知識を学習し、「人生100年、現役80年」に、どう実践していくかを学びます。自分の人生をポジティブなものにするための技術として、行動変容モデルを参考にご自身のライフシフトプランを描いていきます。

- 第1回目 ライフシフトとはなにかを学ぶ。
- 第2回目 自分の持っている変身資産を考える。
- 第3回目 自身のライフシフトプランを考える。

※講義用資料は、当日に配付いたします。

※講義の途中で一部ワークが入ります。

講 師：松田 壮史 公認ライフシフト・プランナー
ヤマザキ動物看護大学 非常勤講師

日 時：3月7日（土）、14日（土）、21日（土）
10：30～12：00（全3回）

受講料：7,500円

場 所：飯田橋キャンパス（対面）

* 講座の概要については、東京都立大学オープンユニバーシティパンフレットより引用しております。（特別区協議会事業部）

※特別区職員互助組合員の方は初回のみ、必ずお電話で同組合員である旨と『組合員番号』をお申し出ください。

<問い合わせ先>

東京都立大学オープンユニバーシティ <https://www.ou.tmu.ac.jp>

Tel.03-3288-1050（平日 9：00～17：30）

●パンフレットを無料送付いたします。

中防処理施設 事業紹介

東京二十三区清掃一部事務組合の中防処理施設管理事務所は、不燃ごみ・粗大ごみを中間処理する施設や焼却灰の積替えを行う施設（以下、「中防処理施設」という。）等を運営しています。

中防処理施設は、不燃ごみや粗大ごみからの資源回収や灰のセメント原料化に取り組み、埋立処分量の削減及び資源の有効利用をより一層推進しています。

今回は、そんな中防処理施設の事業についてご紹介します。

不燃ごみ処理センター

【概要】

家庭から出された不燃ごみは、中防不燃ごみ処理センター及び京浜島不燃ごみ処理センターで中間処理しています。23区内で不燃ごみを処理する施設は2か所です。

不燃ごみの搬入方法は、収集車での搬入以外に、船舶中継所で船舶に積み替え、河川を航行して揚陸施設まで運搬し、クレーンで天蓋コンテナ車へ陸揚げしてから搬入する方法があります。

搬入された不燃ごみは、まず破砕機で細かく破砕します。破砕した不燃ごみから磁力によって鉄とアルミニウムを選別・回収します。

また、ふるい選別機で陶磁器くずなどの細かい不燃物を選別し、最終処分場へ埋立処分します。最後に残った燃やせるものは、清掃工場に搬出し焼却処理します。

【資源回収】

鉄・アルミニウムを選別・回収後、それぞれ成型し、資源として売却しています。



不燃ヤード（収集車で搬入の様子）

粗大ごみ破砕処理施設

【概要】

粗大ごみ破砕処理施設は、23区内に中防処理施設の1か所のみので、各区で回収された粗大ごみのほぼ全てが搬入されます。搬入された粗大ごみからまず手作業で羽毛布団等の資源や破砕処理に適さないリチウムイオン電池等の充電式電池（以下、「二次電池」という。）付き製品、ベッドマットレス等を取り除きます。その後、粗大ごみを破砕機で細かく破砕し、磁力によって鉄を選別・回収します。

破砕処理した粗大ごみの残さのうち、燃やせるものは清掃工場に搬出し焼却処理します。焼却に適さないものは埋立処分します。

また、畳やベッドマット、皮革ごみなど破砕処理に適さない粗大ごみは、専用の処理機で個別処理します。二次電池付き製品は、手作業で二次電池を取り外してから破砕処理します。

【資源回収】

① 鉄

粗大ごみには鉄が含まれているものも多くあるため、鉄を選別・回収し、資源として売却しています。

② 羽毛布団

粗大ごみとして搬入される羽毛布団には、羽毛を再利用できるものがあります。そのため施設のヤード内で選別・回収し、資源として売却しています。

③ ゴルフボール

粗大ごみとして搬入されるゴルフバッグ等には、ゴルフボールが入っていることがあります。ゴルフボールの中には再利用できるものも多いため、リサイクル業者に売却しています。

④ 除湿機

粗大ごみとして搬入される除湿機は主に家庭用に作られた製品のため、「フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律（フロン排出抑制法）」の対象外となっています。そのまま破砕処理しても問題ありませんが、当施設では、自主的にフロンの回収を専

灰溶融施設

【概要】

中防灰溶融施設では、清掃工場で排出された焼却灰を溶融処理し、土木資材として有効利用することで最終処分場の延命化や環境負荷の低減に寄与していました。しかし、エネルギーの大量使用や東日本大震災以降の電力の逼迫等の問題もあり、平成26年3月末で溶融処理を停止することになりました。現在はセメント原料化事業（※）により、他工場の焼却灰を全国のセメント工場へ搬出するための灰の積替え施設として運用しています。また、他工場から運搬された飛灰（ごみの焼却で発生するばいじん）の薬剤処理も行っています。



手選別した羽毛布団（資源として売却）

※ 焼却灰を民間のセメント工場まで輸送し、セメントの原料として有効利用することで、最終処分場の延命化を図るための事業。



焼却灰の搬出の様子

中防処理施設の課題 (二次電池付き製品対応)

生活様式や時代の変化に伴い、排出されるごみ質も変化してきています。近年では不燃ごみや粗大ごみとして搬入される二次電池付き製品により、ごみ収集車や処理施設の火災が頻発し、社会問題になっています。

中防不燃ごみ処理センターでは令和2年に、粗大ごみ破碎処理施設では令和5年に、消防を要請する大規模な火災が起きました。火災の原因は二次電池でした。特に令和5年の粗大ごみ破碎処理施設の火災は、23区で唯一の粗大ごみを処理する施設が長期間稼働不能となり、粗大ごみ処理の危機的な

事態となりました。

現在、施設の安定操業が行えるよう破碎ごみを搬送するコンベヤ内部への常時散水や加熱の予兆をより早く感知できる熱感知器を設置するなど火災対策を強化しています。

しかしながら、二次電池は破碎処理後、しばらくしてから発火することもあるため、感知器で全て



令和5年11月、粗大ごみ破碎処理施設の火災



二次電池付き製品（搬入された不燃ごみの一部）

の火災を検知することが困難です。

そのため、粗大ごみについては二次電池付き製品を個別で搬入していただくこと、不燃ごみについては23区で二次電池の個別回収等を進めていただくことにより、二次電池付き製品の混入が減ると考えています。引き続き、23区と連携し、今後も安全かつ安定的な施設運営に努めてまいります。



個別搬入された二次電池付き製品（粗大ごみ）



二次電池付き製品（電動キックボード）

●中防処理施設の火災情報

中防処理施設ではホームページ上で施設の火災情報を公開しています。またYouTube動画を作成し、過去の火災状況や火災対策等を発信しています。今後も区民の皆様へ啓発活動を行うとともに、引き続き23区と連携してまいります。

中防処理施設の火災情報（ホームページ）



<https://www.union.tokyo23-seisou.lg.jp/chubo/kanri/kojo/chubo/kasaijyouhou.html>

●今後の中防処理施設

現在、中防処理施設では不燃・粗大ごみを一体処理するための新施設の建設を行っています。既存施設を運営しながら建設しているため、工事の状況によりごみの貯留場所の確保や車両搬入動線の変更等を行っています。新施設のしゅん工は、令和10年5月の予定です。今後も安全かつ安定的な施設運営に努めてまいります。

（東京二十三区清掃一部事務組合
中防処理施設管理事務所）



2025年の大井競馬を振り返って

【DIRT IS TCK.】

2025年は、コミュニケーションテーマ「DIRT IS TCK.」のもと、年間イメージキャラクターを俳優の池田エライザさんが務めました。さらに、5大競走それぞれにゲストキャラクターやコピーを設定するという、今までにない新しい形のプロモーションを展開し、TCKの持つ様々な魅力を表現しました。また、テーマ楽曲には、羽田盃のゲストキャラクターでもある清塚信也さんがベートーヴェンの交響曲第5番をアレンジした楽曲「運命 -DIRT IS MELODY-」を採用。重厚かつスタイリッシュなメロディーで、75周年の大井競馬を盛り上げました。



【開場75周年アニバーサリー】

大井競馬場は今年、1950年の開場から75年の節目の年を迎えました。これを記念し、これまでの歴史を振り返るとともに、お客様への感謝の意を込めた様々なイベントや事業を実施しました。



【最新技術を活用「生成AIで競馬CMつくってみた」】

近年目覚ましい発展を遂げている生成AIを、レースが持つ魅力をとことん誇張表現するためのエンタメ技術として活用。競馬あるあるを散りばめつつ、現実ではありえない架空のレース実況CMを制作しました。競馬ファンのみならず、普段あまり競馬を見ないという方々の間でも話題となり、レースの認知度向上に貢献しました。



【東京大賞典】

12月29日（月）にダート競馬の総決算レース「第71回東京大賞典（GI）」を実施し、大井競馬所属のディクテオン号が勝利しました。TCK所属馬がこのレースを制するのは1993年以来32年ぶり、地方馬としても20年ぶりの優勝となります。また、東京大賞典を含む第14回開催の合計売得金額は278億749万円余となり、地方競馬1開催の売上記録を更新しました。



【23区との連携】

東京メトロポリタンウィーク（10/20～24）では、23区にちなんだ冠レースの実施やPR動画の放映などを通じて、各区の魅力を全国に発信しました。また、各区ホームページや広報紙、庁舎デジタルサイネージ等にTCKのバナー広告や動画広告を出稿する取り組みを通じて、TCKのPRと区財政への貢献を図りました。

【開催状況】

2025年4月から12月までの開催成績は、1日平均の売得金額が前年同期比105.1%、場外発売所やインターネット投票利用者を含めた1日平均の利用者数は前年同期比98.6%という結果でした。また、暦年での売得金額は2,096億5,984万円余、1日平均売得金は21億3,938万円余となり、いずれも過去最高額を記録しました。

（競馬事務局 広報課）

開催成績

（各回対比）

回別	開催日程	売得金額	利用者数	1日平均			前年度同時期対比(1日平均)		
				売得金額	利用者数	1人当り購買金額	売得金額	利用者数	1人当り購買金額
14	12/24～26,29～31	27,807,491,340円	2,534,582人	4,634,581,890円	422,430人	10,970円	101.7%	102.2%	99.5%
15	1/12～1/16	7,993,594,940円	886,892人	1,598,718,990円	177,378人	9,010円	106.7%	102.8%	103.8%



INFORMATION

2月の開催予定

トウインクルレース開催

昼間・薄暮開催

競馬開催日

大井
浦和
船橋
川崎

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土

川崎競馬開催

船橋競馬開催

大井競馬開催

雲取賞

浦和競馬開催



雲取賞 (Jpn III)

- 2月18日 (水)
- 1,800m

JRA所属馬を交えて争われる、3歳ダート三冠競走の前哨戦。ダートグレード競走に昇格となったのは第6回(令和6年)からであり、平成30年までは準重賞として、第1回(平成31年)から第5回(令和5年)まではSIII競走として施行されていました。

3月の開催予定

トウインクルレース開催

昼間・薄暮開催

競馬開催日

大井
浦和
船橋
川崎

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火

川崎競馬開催

船橋競馬開催

フジノウェーブ記念

浦和競馬開催

大井競馬開催

京浜盃

船橋競馬開催



フジノウェーブ記念 (SIII)

- 3月10日 (火)
- 1,400m

南関東所属のトップホースによって争われる、古馬短距離路線のSIII競走。第1回(平成22年)から第4回(平成25年)までは「東京スプリング盃」の名称で施行されていましたが、当時の名スプリンターであるフジノウェーブがこの4回をすべて制したことにより、第5回(平成26年)から現在のレース名へと改められました。



京浜盃 (Jpn II)

- 3月25日 (水)
- 1,700m

JRA所属馬を交えて争われる、3歳ダート三冠競走の前哨戦。ダートグレード競走に昇格となったのは第47回(令和6年)からであり、第46回(令和5年)まではSII競走として施行されていました。なお、第1回が施行されたのは昭和53年。全日本的なダート競走の体系整備が行われる前から南関東地区の3歳クラシック前哨戦として親しまれてきた、伝統あるレースです。

パソコンからでも、スマホからでも投票できる！

ネットで地方競馬を楽しむなら！

SPAT4

お問い合わせは 0120-006-309

南関東競馬開催日の昼間開催10~17時/ナイター開催12~21時
※20歳未満の方はご利用いただけません。またご利用いただけるのは日本国内在住の個人の方のみです。法人での申し込みはできません。

全国の地方競馬全レースが買える！ライブが見られる！

50円から買える！「トリプル馬単」も発売！

馬券購入でポイントが貯まる！

最短15分でスパッと入会！

<https://spat4special.jp>

SPAT4

検索



編集

- 特別区長会事務局調査第1課
- 特別区議会議長会事務局
- 特別区人事・厚生事務組合総務部情報政策推進課
- 公益財団法人特別区協議会総務部情報政策推進課
- 東京二十三区清掃一部事務組合総務部総務課
- 特別区競馬組合競馬事務局広報課

- TEL (5210) 9738 ホームページ<https://www.tokyo23city-kuchokai.jp/>
- TEL (5210) 9731 ホームページ<http://www.tokyo23city-gichokai.jp/>
- TEL (5210) 9917 ホームページ<https://www.union.tokyo23city.lg.jp/>
- TEL (5210) 9917 ホームページ<https://www.tokyo-23city.or.jp/>
- TEL (6238) 0613 ホームページ<https://www.union.tokyo23-seisou.lg.jp/>
- TEL (3763) 2170 ホームページ<https://www.tokyocitykeiba.com/>